

NEJIREBANE, No. 111, 25. Nov. 2004

八木正道氏蒐集のコメツキムシ (続報 1)  
Elaterid Beetles Collected by Mr. Masamichi YAGI (Supplement I)

岸井 尚 Takashi KISHII

〒 569-1044 高槻市上土室 1-10, 6-410

茨木市にお住まいの八木正道さんとは、確か1985年頃に本学会の例会でお会いして以来のご縁であるが、その間、氏の精力的な内外へのカミキリ採集行の際に得られた、実に多くのコメツキを研究用に提供していただき、出不精な筆者には計り知れない新知見 (1989: 27-58; 1990: 11-27; 1992: 5-10; 1993: 15-34; 1994a: 5-15; 1994b: 1-35; 1995: 1-114 1996: 1-40; 2001a: 9-14; 2001b: 45-50) を得させていただいた。

今回報告する資料は 2001 年の学会時依頼され、北海道から南西諸島各地、台湾および一部の東南アジアから得られたものの記録である。久米島の資料は 10 頭の少ないものであるが、内容は大変興味深いもので未記載と見られる種が 3 種ほどあり、これは別に報告し、台湾の資料も別に記録することとする。また、兵庫県飾磨郡家島町は瀬戸内海にある本州側沿岸からほぼ 10 km あまり離れた海上にあり、これまでにコメツキムシ分布記録はほとんど無いようで、以下に記録した 6 種の大部分はこの島での初記録となると思われる。なお、採集者名の無いものはすべて八木正道氏が採集されたものである。

末尾であるが、変わらぬ八木さんのご厚情に深い感謝の意を表したい。

本土産の資料

*Pectocera hige hige* KISHII, 1993 ヒゲコメツキ

2♀♀, 兵庫県飾磨郡家島町家島, 2. VI. 2000.

*Agrypnus (Agrypnus) binodulus binodulus* MOTSCHULSKY, 1861 サビキコリ

1♂, 滋賀県八日市市, 7. VIII. 1997, M. TANIDA leg.

***Agrypnus (Agrypnus) cordicollis*** (CANDÉZE, 1865) ムナビロサビキコリ

1 ♀, 佐渡島妙見山白雲台, 28.V.1999.

***Lacon (Alaotypus) maeklinii maeklinii*** (CANDÉZE, 1865) オオサビコメツキ

1 ♀, 奈良県奈良市春日山, 9.VI.2000.

***Scutellathous sasajii*** KISHII, 2001 ホソアカツヤコメツキ (写真1)

1 ♂, 和歌山県日高郡龍神村護摩壇山, 26.VII.2001.

命名されたのは最近であるが, 以前から本州各地で知られていた種で, 台高山系ではよく採集されており, 護摩壇山産の資料も記載 (パラタイプ) に用いられた。

***Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus*** (CANDÉZE, 1873) クロツヤハダコメツキ

1 ♀, 和歌山県伊都郡高野町高野山, 19.VII.2000; 1 ♀, 和歌山県日高郡龍神村護摩壇山, 26.VII.2001.

ツヤハダコメツキの仲間は島嶼での分化が著しく, 本種も伊豆諸島・口永良部島・沖縄本島に分布する個体群はそれぞれ別亜種 (*izuinsulanus*, *okadomei*, *kuniyoshii*) とされているが, 最近の研究で屋久島及び済州島産のものもそれぞれ別亜種 (*yakuanus*, *hallaensis*) として記載された (KISHII, 2001: 45-46; 2002: 8-9)。

***Hemicrepidius (Hemicrepidius) sinuatus sinuatus*** (LEWIS, 1894) コクロツヤハダコメツキ

2 ♂♂, 和歌山県日高郡龍神村護摩壇山, 3.VIII.2000.

本種も前種同様の傾向が強く, 屋久島産個体群が既に別亜種とされていたが (*satouchii*), 済州島にも別亜種 (*insularis*) が分布していることが判明した。

***Hemicrepidius (Hemicrepidius) desertor desertor*** (CANDÉZE, 1873) ヒメクロツヤハダコメツキ

2 ♂♂, 和歌山県日高郡龍神村護摩壇山, 26.VII.2001; 1 ♂, ditto, 1.VIII.2001.

本種も前2種同様に島嶼での分化が明瞭な種で, 対馬・屋久島・奄美大島・済州島のものがそれぞれ別亜種とされている (*taishu*, *yakuensis*, *amamicola*, *chejuanus*)。

***Hemicrepidius (Miwacrepidius) subcyanus*** (MOTSCHULSKY, 1866) ルリツヤハダコメツキ

1 ♀, 奈良県吉野郡上北山村和佐又山, 10.VIII.2000.

***Acteniceromorphus selectus*** (CANDÉZE, 1865) エゾフトヒラタコメツキ

2 ♂♂, 3 ♀♀, 北海道愛山溪温泉, 18.VII.1999; 1 ♂, 1 ♀, 北海道黒岳, 19.VII.1999.

北海道を代表するコメツキの一つで, 夏期エゾニュウなどの花上で最も普通にみられる。奥尻島, 国後島にも分布するがサハリンからの記録は見あたらない。朝鮮半島 (?) と済州島 (KIM, 1984: 206; LEE *et al.*, 1985: 407) からの報告もあるが, 筆者が最近検討の機会を得た多量の済州島産コメツキ資料中には見あたらず, 地域的にも, 他の済州島産コメツキのファウナからも, 多分に同定の誤りである可能性が強いと思う。

***Actenicerus pruinus*** MOTSCHULSKY, 1866 シモフリコメツキ

1 ♂, 大阪府内, 9.V.2000.

***Selatosomus (Eanoides) puerilis*** (CANDÉZE, 1873) シリプトヒラタコメツキ

2 ♀♀, 岡山県臥牛山, 20.IV.1998.

本種の雄生殖器官を検討すると, 複数種の混在を疑うに足る形態差をもつ二つのグループ群に分け得るが, 一般外形上では共に大きさ・色彩・形状・体表点刻状態・その他の点で互いに多少の共通の変異性が認められ, 互いに別種と認識するにはかなりの難点もあり, 現状では共に *puerilis* と同定しておきたい。亜属 *Eanoides* は筆者 (1966) がその雄生殖器官形状の特異性を重視し, 本種を基本種とし独立属として創設したものであるが, TARNAWSKI (1995: 98) が処置したように *Selatosomus* 属との同質性は高く, 亜属とするのが妥当と思う。一般に本属の種はユーラシア大陸で多くの種が知られるが, 大部分は高冷地に棲息し, 本種のように低緯度で暖地でもある長崎を原産地とする種は他に見あたらない。



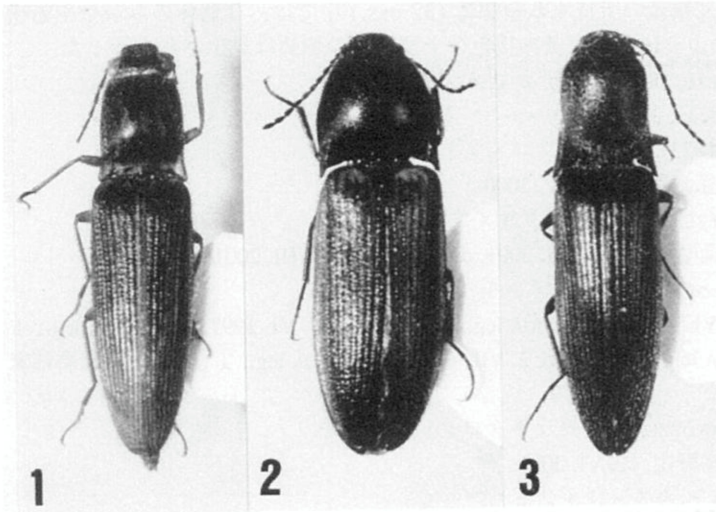


写真1-3:

1. ホソアカツヤコメツキ (和歌山護摩壇山, ♂, 11.9mm); 2. ウススジキバネコメツキ (北海道, ♂, 8.3mm); 3. カバイロコメツキ, 暗色型 (和歌山高野山, ♂, 9.5mm)

*Gamepenthès ornatus* (LEWIS, 1894) コキマダラコメツキ

2 ♀♀, 和歌山県伊都郡高野町高野山, 6. VII. 1999; 1 ♀, 和歌山県日高郡龍神村護摩壇山, 26. VII. 2001.

*Ectamenogonus robustus* (KISHII, 1966) フトナガコメツキ

1 ♂, 滋賀県八日市市, 1. VIII. 1997, M. Tanida leg.

*Ampedus (Miwaelater) carbunculus* (LEWIS, 1879) ヒメクロコメツキ

1 ♀, 奈良県奈良市春日山, 16. VI. 2001.

*Ampedus (Ampedus) takeuchii* KISHII, 1955 ウススジキバネコメツキ (写真2)

1 ♂, 北海道沼ノ原, 17. VII. 1999.

コメツキの仲間は一般的外部形態による同定分類の困難さで知られているが, その中でも *Ampedus* 属はその代表的なグループの一つである. しかし, ユーラシア大陸での *Ampedus* 属の著しい分化は, 最近の両性生殖器官形状の研究により極めて顕著であることが分かり, 本邦でも三輪勇四郎博士 (1934) のモノグラフで 27 種であったものが, 現在では 133 種 (亜種を含む) 記録され, 筆者の手元には更に増える可能性をもつ複数の資料がある. 本種はこれらの中では汚黄色の上翅に縦の淡い黒条がある点で最も分かりやすい種の一つで, 上記の資料は特にその黒条が鮮明な個体である.

*Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus* (CANDÉZE, 1873) アカハラクロコメツキ

1 ♂, 兵庫県糸井村, 13. V. 2001.

*Ampedus (Ampedus) tenuistriatus* (LEWIS, 1894) ホソクロコメツキ

1 ♀, 佐渡島妙見山白雲台, 28. V. 1999 (未記録).

*Ampedus (Ampedus) japonicus* SILFVERBERG, 1977 アカアシクロコメツキ

1 ♂, 和歌山県伊都郡高野町高野山, 12. VI. 2001.

*Ectinus sericeus sericeus* (CANDÉZE, 1878) カバイロコメツキ (写真3, 暗色型)

5 ♀♀, 佐渡島妙見山白雲台, 28. V. 1999; 1 ♂ (暗色型), 和歌山県伊都郡高野町高野山, 12. VI. 2001.

*Ectinus* 属で上翅が茶褐色の種ではしばしば上翅の暗色化した黒化型が見られるが, 本種でも筆者が指摘したように (1984: 58), その傾向は顕著で紀伊半島山地産の個体でそのような個体が 30~40 % 程混在し, 四国・九州山地ではほとんどの個体が黒化し, 茶褐色のものは極めて珍しくなる. 筆者はこれまでにそのような個体としては徳島県剣山産の 1 ♂ (19-20. VI. 1981, 直海

俊一郎 leg.) を検したのみで、九州産の所持する全個体 (32 exs.) 中では、3 個体のみがやや赤味を帯びた上翅をもち、本州産のように明瞭な黄赤褐色の上翅をもつ個体は見出されなかった。

*Mulsanteus junior junior* (CANDÉZE, 1873) ヒゲナガコメツキ

2 ♂♂, 兵庫県飾磨郡家島町家島, 2. VI. 2000.

*Dolorosomus gracilis* (CANDÉZE, 1873) キバネホソコメツキ

3 ♂♂, 3 ♀♀, 兵庫県飾磨郡家島町家島, 4. V. 2000.

*Silesis musculus musculus* CANDÉZE, 1873 クチプトコメツキ

1 ♀, 和歌山県日高郡龍神村護摩壇山, 26. VII. 2001; ditto, 4 ♂♂, 1. VIII. 2001.

*Melanotus legatus legatus* CANDÉZE, 1860 クシコメツキ

2 ♂♂, 滋賀県八日市市, 15. VI. 1997, M. TANIDA leg.; 1 ♂, ditto, 25. VI. 1997, M. TANIDA leg.; 1 ♂, Ditto, 27. VI. 1997, M. TANIDA leg.; 1 ♂, ditto, 2. VII. 1997, M. TANIDA leg.; 1 ♂, 兵庫県飾磨郡家島町家島, 2. VI. 2000.

*Melanotus correctus correctus* CANDÉZE, 1865 ヒラタクロクシコメツキ

1 ♂, 和歌山県伊都郡高野町高野山, 12. VI. 2001.

*Melanotus legatoides* KISHII, 1975 ヒメクシコメツキ

1 ♀, 和歌山県伊都郡高野町高野山, 26. VI. 2001.

*Melanotus senilis senilis* CANDÉZE, 1865 クロクシコメツキ

1 ♀, 奈良県奈良市春日山, 8. VI. 2000.

*Spheniscosomus cete cete* (CANDÉZE, 1860) アカアシオオクシコメツキ

1 ♀, 兵庫県飾磨郡家島町家島, 2. VI. 2000; 1 ♂, 奈良県奈良市春日山, 16. VI. 2001; 2 ♀♀, 和歌山県伊都郡高野町高野山, 12. VI. 2001.

*Spheniscosomus cribricollis* (FALDERMAN, 1835) オオクシコメツキ

1 ♂, 兵庫県飾磨郡家島町家島, 14. VII. 2000.

従来、邦産の本種名は CANDÉZE (1865) の *restrictus* が用いられてきたが、中国及び朝鮮半島から得られた、多くの大産産の上記名をもつ種の資料とは基本的に異なる形態的な差異を見出し得ないので、同種個体群として扱われるべきものと思う。また、邦産個体群を亜種と見なすむきもあるが、筆者はそれほどの差異はないように見ている。

## 南西諸島産の資料

*Agrypnus (Agrypnus) scutellaris hamai* OHIRA, 1967 サキシマシロモンサビキコリ (写真4)

1 ♀, 沖縄県石垣島オモト岳, 10-11. X. 1996, M. TANIDA leg.; 1 ♂, 沖縄県石垣島オモト隧道, 23. V. 2001.

*Cryptalaus larvatus larvatus* (CANDÉZE, 1874) オオフタモンウバタマコメツキ (写真5)

1 ♀, 沖縄県石垣島, 9. IX. 1996, M. Tanida leg.; 2 ♂♂, 沖縄県石垣島オモト岳, 10-11. X. 1996, M. TANIDA leg.

*Cryptalaus larvatus pini* (LEWIS, 1894) フタモンウバタマコメツキ

1 ♂, 鹿児島県屋久島永田, 17. VII. 2001.

本種の原名亜種 (前者) と本亜種との形態的な差異は、台湾産個体群 (原名亜種) と本州・四国・九州などの本邦本土産個体群 (*pini*) では比較的容易に区分できるが、南西諸島産個体群がどうなるかという点になると、明瞭に区分することが些か困難になる。雄生殖器形状、特に側片先端部形状や中片形状には明確な差異点は見あたらぬが、主として前胸背板が広く側縁部は後角前方で強く弧状にえぐれることと、上翅先端のえぐれの内縁は横に直線状なのが原名亜種で、前胸背板は細目、側縁部は後角前方で僅かにえぐられるのみで、上翅先端の別れは矢筈状で内縁は斜めに別れるのが *pini* と見なされる。しかし南西諸島の多くの地域から得られた資料中には、その中間的な形態をもつものもある。少なくとも沖縄諸島以北の個体群ではほとんどが *pini* の特徴



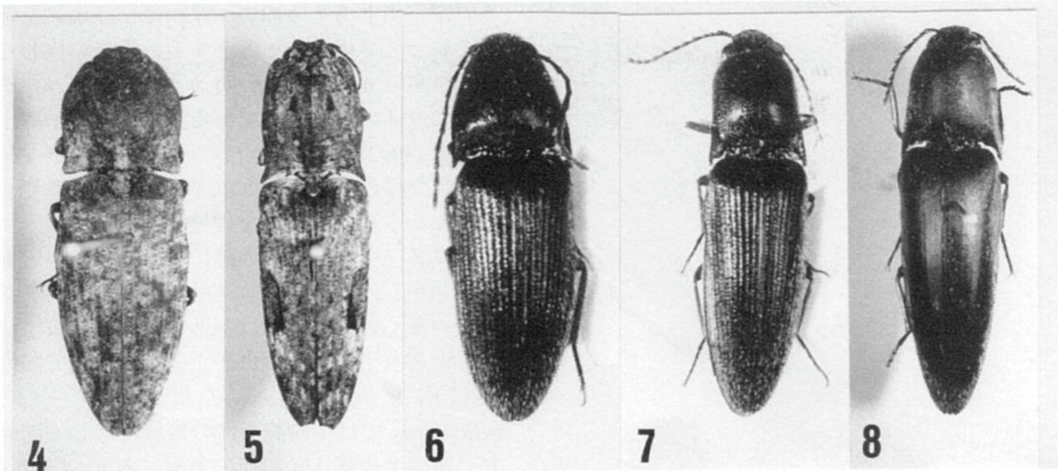


写真 4-8: 4. サキシマシロモンサビキコリ (石垣島オモト岳, ♀, 18.9mm); 5. オオフトモンウバタマコメツキ (石垣島オモト岳, ♂, 27.0mm); 6. リュウキュウアシプトコメツキ (屋久島小杉谷, ♂, 8.3mm); 7. オオウスカバイロコメツキ (石垣島ノコソ山, ♂, 9.7 mm); 8. オキナワフトナガコメツキ (石垣島オモト岳, ♀, 28.2 mm)

をもち、八重山諸島のものは前胸背板が細目であるが他は原名亜種の特徴を強くもつ。

***Hayekpenthes pallidus pallidus* (LEWIS, 1894) ホソキコメツキ**

1 ♀, 鹿児島県屋久島白谷, 16. VII. 2001.

照葉樹林帯を主たる生息域とする燈火集来型の代表的コメツキであるが、本州北端の青森県からの記録もある。今のところ日本固有種と見られ、奄美大島以南の南西諸島の個体では上翅に黒条をもち、別亜種を形成する (KISHII, 1979: 7-8)。台湾には近似の別種が分布する。

***Akitsu aquilus ryukyensis* (OHIRA, 1968) リュウキュウアシプトコメツキ (写真 6)**

1 ♂, 鹿児島県屋久島小杉谷, 18. VII. 2001.

本種もまた前種同様の生息域と生態をもつが、より暖地系である。種子島・屋久島以南の南西諸島に分布するのは本亜種で、台湾には別亜種が分布する。

***Chatanayus insularis insularis* (MIWA, 1934) オオウスカバイロコメツキ (写真 7)**

1 ♂, 沖縄県石垣島ノコソ山, 25. VIII. 2001, M. TANIDA leg.

東南アジアに主たる分布域をもつ属で、本邦では本種に似た別種 *C. ishiharai* が本州・四国・九州などから知られるが、このグループもまた前2種同様の生態をもつ。しかし、生息地は人家に近い平地で、水田の多い地域からの記録例が多い。本種は南西諸島だけに分布し、奄美大島と沖縄本島のものは別亜種とされる (KISHII, 1984: 17-21)。

***Nipponoelater babai babai* (KISHII, 1987) オキナワフトナガコメツキ (写真 8)**

1 ♀, 沖縄県石垣島オモト岳, 24. VIII. 2001, M. TANIDA leg.

本邦産の大型コメツキとしては代表的な *N. sieboldi* (CANDÉZE, 1873) オオナガコメツキによく似た種で、以前は台湾を含め南西諸島産の類似個体群は、総てこの種として記録されていた。しかし筆者はこれらの地域からの多くの資料に基づく検討の結果、その殆どは別種とすべきものと見なすに至り本種を記載した (1987: 12-17; 1989a: 37-38, 49-50)。また本種の所属は当初コメツキムシ科甲虫の代表属名である *Elater* 属とされたが、後に筆者は *N. sieboldi* を基本種として亜属 *Nipponoelater* を創設し (1985: 23), 更に独立属とみなした (1999: 80) が、大平は北米原産の *Aphanobius infuscatus* GERMAR, 1844 を基本種とする属 *Orthostethus* LACORDAIRE, 1857 のシノニムとして扱った (1997: 37)。

しかし、北米原産の上記種は筆者の検討では、邦産種及びよく似た東南アジアに多数種のものとは、基本的構造で異質な形態上の特徴をもち、同じ属の種とは考えにくく、異なる属に含め

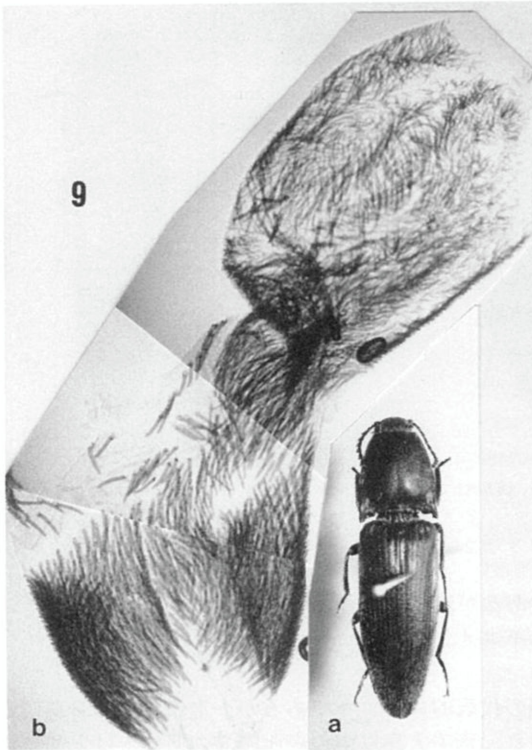


写真9. オモトクロクシコメツキ (石垣島ノコソ山, ♀), a. 22.8 mm;  
b. 貯精囊内角質構造

るのが妥当と考えるので, *Nipponoelater* を独立の属として用いることとする. 筆者の検した北米原産の *A. infuscatus* はカナダ・アルバータ大学のコメツキ研究者である Ed. FULLER 博士の同定 (1992) による, フロリダ州ブラッドフォード郡で得られた2頭 (♂, ♀) の資料に基づくものであるが, 一般的な外見では本邦産のオオナガコメツキとその類似種によく似た外観をもつ. しかし, オオナガコメツキおよび東南アジア産の多くの類似種では例外なく中胸腹板溝はほとんど水平状で, 中央またはその前後で陥没状に内方へ曲がるものは無い. 一方, *infuscatus* では中胸腹板溝の後縁は著しく隆起し, 腹板溝後部 1/3 の所で急激に内方へ陥没状に曲がり (階段状), 側縁はその部位から前方へ水平状に伸びる. この特徴は筆者が台湾から報告し新属新種として記載した *Taiwanostethus tanidai* KISHII, 1994 に似た点はあるが, *Orthostethus* の方では腹板溝後縁部前端は突起状に前方に突出し, この特徴は米国南部から中米に分布する別種 *O. setosus* (GERMAR, 1844) (*Aphanobius* で記載) でも認められる. 一方 *Taiwanostethus* では突起はなく, 前胸腹板側縁線が単純で, *Orthostethus* や *Nipponoelater* のように明瞭な二重状ではない. 以上のようなわけで筆者は本邦及び東南アジアを含めた地域に *Orthostethus* 属の分布はないものとする. なお,

大平 (1997:43-44) は台湾産の別亜種 *N. babai taiwanus* (Kishii, 1989) とオオナガコメツキの別亜種 *N. sieboldi amami* (KISHII, 1987) を共に独立種と見なしているが, これはある程度, 研究者の主観に左右されることでもある. この仲間では総じて形質が固定的で個体変異的な形態の変異は少ないようなので, 固定的であれば微細形質の差異でも重要視した扱いは妥当かも知れない.

*Silesis okinawensis okinawensis* MIWA, 1928 オキナワクチプトコメツキ

1ex., 沖縄県沖縄本島国頭郡国頭村森林公園, 29. VI. 1997, 増田敏雄 leg.; 2exs., 19.V.2000.

*Silesis yaku* KISHII, 1976 ヤククチプトコメツキ

1ex., 鹿児島県屋久島安房林道, 17. VII. 2001.

*Glyphonyx okinawanus* CHÛJÔ, 1959 オキナワムネアカクチボソコメツキ

5exs., 沖縄県沖縄本島国頭郡国頭村森林公園, 19. V. 2000.

*Melanotus legatoides* KISHII, 1975 ヒメクシコメツキ

1♀, 鹿児島県屋久島宮之浦, 16. VII. 2001.

*Spheniscosomus omotoensis* (OHIRA, 1966) オモトクロクシコメツキ (写真9)

1♀, 沖縄県石垣島ノコソ山, 25. VIII. 2001, M. TANIDA leg.

#### 参考文献

CANDÈZE, E. C. A. (1865). Elaterides nouveaux. I. Mem. Cour. Acad. Roy. Sci., Belgique, **17**(1): 1-63.

KIM Won-Taek (金源澤) (1984). Insect fauna of four craters in Cheju Island. Cheju Univ. Jour., Nat. Sci., Cheju-do, **18**: 197-211 (in Korean).



- KISHII, T. (1966) Elateridae of Kyoto and its adjacent regions. Biol. Lab. Heian High Sch., Kyoto: 1-54.
- (1979) Some new forms and records of Elateridae in Japan and its adjacent area. Some new forms of Elateridae in Japan (XIV). Annl. rep. Priv. schs. Kyoto Pref., Kyoto, 17: 1-21.
- (1984) The Elaterid-beetles of the Tribe Agriotini from Japan (Coleoptera: Elateridae, Elaterinae). The Elateridae of Japan, 1. Bull. Heian High Sch., Kyoto, 28: 11-77.
- (1985) Some new forms of Elateridae in Japan (XVII). Ibid., 29: 1-30.
- (1987) Some new forms of Elateridae in Japan (XIX). Ibid., 31: 1-20.
- (1989) Elateridae from Taiwan, with descriptions of some new taxa (3) (Coleoptera). A study of the materials collected by Dr. Kintaro BABA in 1986 and 1987. Trans. Essa ent. Soc. Niigata, (68): 27-58.
- (1990) Taiwanese Elateridae collected by Mr. M. Yagi, with the descriptions of some new taxa (Coleoptera). Ent. Rev. Japan, Osaka, 45 (1): 11-27.
- (1992) Two new Elaterid-species from Taiwan collected by Mr. M. YAGI (Coleoptera). Ibid., 47 (1): 5-10.
- (1993) Taiwanese Elateridae collected by Mr. M. YAGI in 1991, with the descriptions on some new taxa (Coleoptera). Ibid., 48 (1): 15-34.
- (1994a) Notes on the Taiwanese Elateridae collected by Mr. M. YAGI in 1992, with the descriptions of three new species (Coleoptera). Ibid., 49 (1): 5-15.
- (1994b) Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (13). Bull. Heian High Sch., Kyoto, 38: 1-35.
- (1995) A study on the Elaterid-beetles of SHIBATA collection from Taiwan, I (Coleoptera: Elateridae). On the subfamilies Oxynterinae and Agrypninae. Ent. Rev. Japan, Osaka, 50 (1): 1-14.
- (1996) Notes on Elateridae from Japan and its adjacent area (14). Bull. Heian High Sch., Kyoto, 39: 1-40.
- (1999) A check-list of the subfamily Elateridae from Japan (Coleoptera). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, 42: 1-144.
- 岸井 尚 (2001a). 八木正道氏蒐集のコメツキムシについて. Nejurebane. Osaka, 96: 9-14.
- (2001b). Three new taxa of the genus *Hemicrepidius* (Coleoptera: Elateridae) from west Japan. Some new forms of Elateridae in Japan (XXXIII). Ent. Rev. Japan, Osaka, 56 (2): 45-50.
- & Paik, J.-C. (2002) Elaterid-beetles of Is. Cheju (Quelpart Island) (Coleoptera: Elateridae). Ent. Rev. Japan, Osaka, 57 (1): 1-27.
- LEE Young-In, KIM Won-Taek and KIM Dae-Ho (李 英仁, 金 源澤, 金 大浩) (1985). Insect fauna of Mt. Halla. Report of the academic survey of Hallasan (Mountain) natural Preserve. Cheju-do: 351-455 (in Korean).
- MIWA, Y. (1934). The fauna of Elateridae in the Japanese Empire. Rep. Dept. Agr. Gov. res. Inst., Formosa 65: 1-289.
- 大平仁夫 (1997) 日本産オオナガコメツキとその近似種について (Notes on *Orthostethus sieboldi* and its allied species from Japan [Coleoptera, Elateridae]). HIBAKAGAKU, Hiroshima, 182: 37-44 (in Japanese, with English summary)
- TARNAWSKI, D. (1995) A revision of the genus *Selatosomus* STEPHENS, 1830 (Coleoptera: Elateridae: Athoinae: Ctenicerini). Polish Taxonomical Society, Warsaw: 1-183.

## コセスジゲンゴロウを約60年ぶりに再発見 Rediscovery of *Copelatus parallelus* (Dytiscidae) after an Interval of about Sixty Years.

西城 洋・初宿成彦 Hiroshi SAJO and Shigehiko SHIYAKE

(大阪市立自然史博物館；西城：外来研究員，博士（学術） 初宿：同・学芸員)

コセスジゲンゴロウ *Copelatus parallelus* は 1920 年に ZIMMERMANN によって「Settsu」(摂津＝大阪府と兵庫県の一部地域が属する旧国名) から記載されたゲンゴロウ科の一種である。しかし、過去の採集記録はタイプを含めて1♂1♀の2頭のみで、1944 年を最後に、これまで採集されていなかった。そのため、大阪府レッドデータブック (大阪府, 2000) では、「情報不足」として位置づけられていた。

筆者のひとり、初宿が 2000 年 4 月に滋賀県北西部安曇川流域で水辺の甲虫相を調査し、その折りの標本を未同定・未整理の状態で大阪市立自然史博物館に保管しておいたところ、西城が未整理標本登録作業中の 2003 年 12 月に、これらの中から本種 1 個体を発見した。これを受け、筆者ら (調



査協力者を含む 12 名) が, 2004 年 4 月 10 日に安曇川流域周辺を再調査したところ, 本種 13 個体が採集され, その生息を確認することができた。

本種の見つかった環境は, 水深が数 10 センチ程度のヨシ帯で, 流れはほとんどなく, 水底は泥質でヨシの茎などが堆積していた。また, 本調査地は, 4 月中旬には雪解けによる河川流量の増加などにより冠水しているが, 真夏や厳冬期など雨の少ない時期には流量が減少するため, 干上がるものと思われる。このことは, 同属の他種の多くが不安定な浅い水域を好むことと関連して興味深い。

森正人氏は, 過去に採集された大阪府守口市産の本種 (1 ♀) が, 淀川の河原で大雨あとの塵埃の下から見ついていたことから, 淀川河川敷で再三にわたり本種の採集を試みたが, これまで発見することができなかつた。しかし今回, 新たに安曇川流域で本種の生息が確認されたことから, 今後は, 琵琶湖周辺で本種の生息地がさらに発見される可能性があると考えられる。

本種の生態については, 詳細な生息環境や生活史, また分布が琵琶湖・淀川水系に限られるのかなど, 興味ある課題が多く残されている。

採集データは以下のとおりである。産地はすべて滋賀県北西部安曇川流域で, 標本は原則として採集者が保管しているが, 研究機関に入っているものは括弧で記した。

1 ex., 2000 年 4 月 22 日, 初宿成彦 (採) [大阪市立自然史博物館]; 1 ex., 2004 年 4 月 10 日, 春沢圭太郎 (採); 3 exs., 同, 上手雄貴 (採); 1 ex., 同, 北山健司 (採); 2 exs., 同, 中西秀治 (採); 1 ex., 同, 中島淳 (採); 2 exs., 同, 西城洋 (採); 1 ex., 同, 下野誠之 (採); 2 exs., 同, 八尋克郎 (採) [琵琶湖博物館]。

本調査には上記のほか, 森正人, 牛島稔広, 河瀬直幹の各氏にもご協力いただいた。また佐藤正孝博士, 上手雄貴氏には本種を同定していただき, 本稿を準備するにあたり, いろいろご教示いただいた。各氏に厚く御礼申し上げる。

#### 参 考 文 献

森正人・北山昭, (1993). 図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京.

## アワジハネナシナガキマワリ *Strongylium tanakai* Ando について

### Notes on *Strongylium tanakai* ANDO

安藤清志 Kiyoshi ANDO

〒563-0104 大阪府豊能郡豊能町光風台 5-3-5

2001 年にナガキマワリ属 *Strongylium* 属の 1 種が同定依頼のために筆者のもとに届けられました。上翅は後翅が退化している特徴的な形状を具え, 一見して筆者の記憶にない種でした。極めて興味深く, 少なくとも本邦初記録であると考えられることから調査をしたところ該当種が見あらず, 2003 年に新種として記載をしました。

本種は 1999 年, 淡路島の洲本市の先山 (標高 448 m) で, 西宮の田中勇氏によって採集されました。この山は頂上近くがシイ, カシなどの照葉樹林で覆われており, 低山地産甲虫類の採集地と



して知られています。氏の記憶に拠りますと、先山頂上付近にある寺院横の茶店から山道を 150 m ほど経た三叉路の付近で朽木中より発見されたとのこと。雄が採集されなかったため、その後筆者らによって何度か採集が試みられたのですが、現場は極めて狭い範囲にもかかわらず採集ポイントが少なく、追加個体は得られておりません。本種は雄のないまま 2 頭の雌を基に 2003 年にアワジハネナシナガキマワリ *Strongylium tanakai* ANDO として新種記載しました。このような大型のゴミムシダマシが近年になって都市部周辺から記載されるのはとても珍しいことです。

本種は後翅の退化した体型から、ハネナシセスジキマワリ *S. marseuli* LEWIS やセスジナガキマワリ *S. cultellatum* MÄKLIN に近似であると考えられがちですが、これらの種とは前胸部の形状や上翅の彫刻及び細長い脚などで明らかに異なります。むしろ平行な体型で全く異質なグループに属すると思われるヒメナガキマワリ *S. impigrum* LEWIS と、前胸部、上翅の彫刻及び脚などの特徴、そして頭部の外部形態などがよく一致し、最も近縁の種であると考えられます。実際、本種は後翅が退化していることを除けばヒメナガキマワリに瓜二つと云って良いかと思えます。ヒメナガキマワリとの相異として掲げることができる点は、アワジハネナシナガキマワリは後翅が退化して鞘翅より短く複眼はより小さい、頭部の点刻はより密で前胸背では平圧された中央線を欠き、後角は後方へ突出しない、基縁は厚く縁取られ、側方でも葉片状とはならない、などですが、相違点としては後翅の退化を除いて、比較的軽微であると考えられます。

本種の雄は未だに発見されていませんが、ヒメナガキマワリでは雌雄の触角の第 3 節と末端節がそ

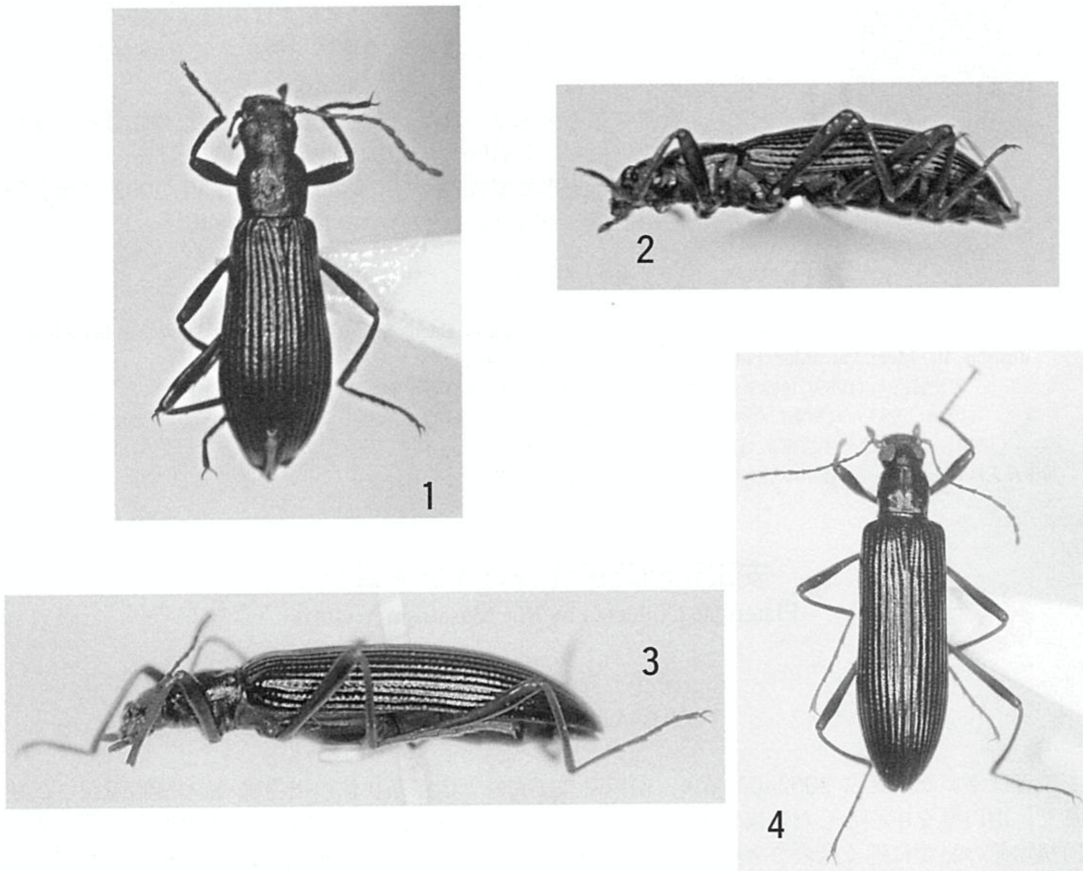


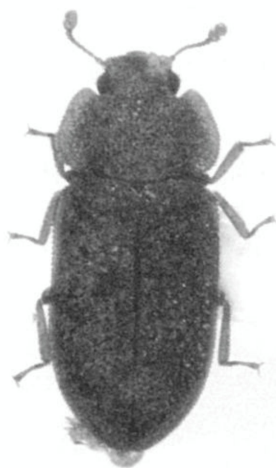
図 1-4: 1, アワジハネナシナガキマワリ (背面); 2, 同 (側面); 3, ヒメナガキマワリ (側面); 4, 同 (背面)

れぞれ二次性徴として大きく異なりますし、雄では第5腹板に明らかな二次性徴が出ます。そのようなわけで本種の雄の発見が望まれます。雄の発見により、本種の系統関係がより明確になると思われまます。またヒメナガキマワリとの関係においても、そのいくつかの特徴の相同性が証明されれば、本種は後翅の退化という大きな特徴にかかわらず、亜種にランクダウンする可能性もあります。

## 本州初記録のコヒラタホソカタムシ The First Record of *Bolocius shibatai* SASAJI (Colydiidae) from Honshū

生川展行 Nobuyuki NARUKAWA

〒513-0015 鈴鹿市木田町 2399



*Bolocius shibatai* SASAJI コヒラタホソカタムシは、鹿児島県佐多岬、屋久島、奄美大島で得られた個体を基に、佐々治 (1984) によって記載された種である。

その後、長崎県 (今坂, 2001, 和田ほか, 2001)、熊本県 (今坂・阿比留, 1989, 今坂, 1994) でも記録され、特に今坂, 阿比留 (1989) は“九州低地の暖地では各地で見つかる”と記していることから、九州では個体数の少ない種ではないようであるが、本州では未記録であった。

最近、筆者は和歌山県で採集された個体を検することができたので、本州初記録として報告しておく。

なお、貴重な標本を恵与いただいた的場績氏、ご多忙のところ標本写真を撮影していただいた稲垣政志氏に心よりお礼申し上げます。

3 exs., 和歌山県東牟婁郡智勝浦町宇久井駒ヶ崎, 1. VI. 2002, 的場績採集 (的場, 生川保管. 朽木のピーティングにより得られた)

### 文 献

- SASAJI, H., 1984. Contribution to the taxonomy of the superfamily Cucujoidea (Coleoptera) of Japan and her adjacent districts, II. Mem. Fac. Educ. Fukui Univ. Ser. I (Nat. Sci.), **34**: 21-63.  
 今坂正一・阿比留巨人 (1989). 1989年に採集した熊本県の甲虫. 熊本昆虫同好会報, **35** (1): 1-32.  
 今坂正一 (1994). 1993年に採集した熊本県の甲虫. 熊本昆虫同好会報, **39** (2): 1-23.  
 —— (2001). 島原半島の甲虫相3. 長崎県生物学会誌, (52): 56-73.  
 和田義人ほか (2001). 金比羅山の甲虫目録. こがねむし, (65): 19-57.

## 安田正利氏蒐集のコメツキムシ Elateridae Collected by Mr. Masatoshi YASUDA

岸井 尚 Takashi KISHII

〒569-1044 高槻市上土室 1-10, 6-410

筆者は幸いなことに 2002-03 年に、山口県立博物館と山口県在住の田中馨・椋木博昭両氏のご好意で、山口県を中心とした西南日本の多くの資料について検討をさせて頂き、その内容については同博物館の紀要に近く発表できるようご配慮を頂いている。さらに2003年暮れ頃に椋木氏から、新しい資料同定を依頼され、多くのコメツキムシ (83 種) と、別に安田正利さんの標本 (57 種) も入っ

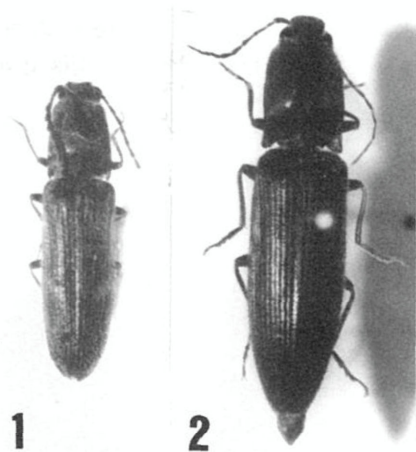


ており、それぞれに興味あるものが多く含まれていた。これらの新鮮な資料の全容は同氏が同好会誌などで発表されると思うので、この報告では分布などの新知見となる以下の5種について報告する。

***Limonicus imitans* (LEWIS, 1894)** タテジマカネコメツキ

1♂, 鳥根県鹿足郡日原町安蔵寺山, 12. VII. 2000, 安田正利 leg.

珍しい種でないが、筆者の知る限りでは鳥根県未記録である。本種は近似のタテジマカネコメツキ *L. vittatus* と極めてよく似ていて、従来同じ種の変異と見られていた。前胸背板点刻が極めて密で部分的に融合状になることが多く、光沢は鈍い後者に対し、本種では点刻間が空いており光沢も強い。後者は既に鳥根からの記録があり、混同されていた可能性は強い。



1.フタキボシカネコメツキ  
2.ヒゴツヤダコメツキ

***Limonicus kraatzi nihonicus* (KISHII, 1966)** フタキボシカネコメツキ (写真1)

1♂, 山口県玖珂郡錦町寂地山, 13. VI. 1999, 安田正利 leg.

原名亜種は CANDÉZE (1879: 281) が KRAATZ によりアムール地方からもたらされた資料で記載したもので (G. KRAATZ, 1879: 284), 中国東北部・朝鮮半島にも分布する。邦産亜種は鳥取県大山を基産地として本州の低山地では広く分布し、四国と対馬からの記録もあるが、九州本土の報告例はない。山口県からは既に数例の採集例が知られているが、今回検鏡した寂地山の♂資料の上翅黄斑は極めて小さく、筆者が今まで検した十数例では見たことのない個体である。本亜種は原名亜種に比し全体がやや細く軟弱気味な体型で上翅の黄斑は一般に斜位で色調も淡いが、今回の資料のようにむしろ消失気味なものは初めてである。

***Scutellathous seinoi* KISHII, 2001** ヒゴツヤハダコメツキ (写真2)

1♀, 大分県大分郡庄内町黒岳, 8. VII. 2000, 安田正利 leg.

本邦固有の属で現在6種1亜種の分布が知られているが、本種は最も最近記載されたものである。熊本県和泉村山犬切(やまいんぎり)で新潟の清野昭夫氏が夜間蛾類の誘引中に得られた1♀資料に基づく。極めて大型濃赤褐色の種で、貯精囊内の刺状毛束板の形状が近似の *S. sasajii* ホソアカツヤコメツキより細く小型である。今回の資料は記載後第2例の記録であるが、大分県の分布は当然であろう。なお別の報文で記録するが、最近愛媛県産の本種と見られるペア資料を検しているの、精査のうえ雄の特徴と共に報告したい。

***Hemicrepidius (Hemicrepidius) sinuatus sinuatus* (LEWIS, 1894)** コクロツヤハダコメツキ

3♂♂, 鳥根県鹿足郡日原町安蔵寺山, 12. VII. 2000, 安田正利 leg.

1♂, 広島県山県郡戸河内町十方林道, 29. VI. 1997, 安田正利 leg.

共に両県からの明確な記録を見ていないので一応それぞれの県での未記録種となるが、長く近似の *H. (H.) secessus* クロツヤハダコメツキの変異型として扱われていたもので、この中に含まれていたものであろう。

***Anostirus (Ipostirus) daimio* (LEWIS, 1894)** ダイミヨウヒラタコメツキ

1♂, 鳥根県美濃郡匹見町, 5. V. 1993, T. Y. leg.

本種も鳥根県からの記録例を見ていないが、隣接の地域全てからの記録例は多い。

参 考 文 献

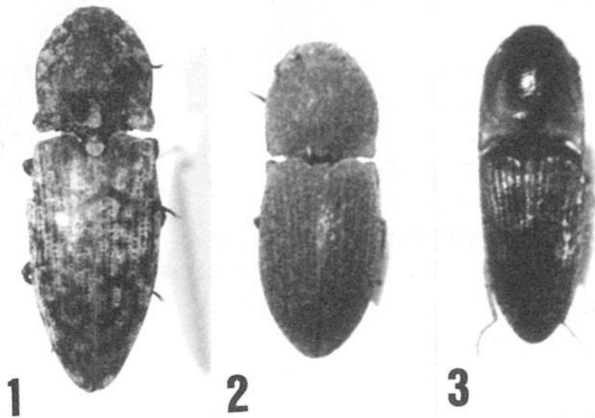
- CANDÉZE, E. (1879). Elaterides de l'Amur. Dts. Ent. Zeit., XXIII, Heft II: 281-282.  
KRAATZ, G. (1879). Ueber Elateriden vom Amur. Ibid., 284.

## 門脇奨氏蒐集の西表島産コメツキムシ

Elaterid Beetles of Is. Iriomotejima Collected by Mr. Tsutomu KADOWAKI

岸井 尚 Takashi KISHII

〒569-1044 高槻市上土室1-10, 6-410



2003年の暮れ頃、北見市の加藤敏行さんから、門脇 奨 (Tsutomu KADOWAKI) さんが西表島大原で得られたコメツキムシを頂いたのでその資料データを記録する。なお産地名は全てラベル表記に従い、採集者名は全て門脇奨さんなので省略した。日頃多くの資料提供を頂き筆者の研究に多大な援助を頂いている加藤さんと、採集者の門脇さんにここで深い謝意を表したい。

*Agrypnus (Agrypnus) scutellaris hamai* OHIRA, 1967 サキシマシロモンサビキコリ (写真1)

沖縄県西表島大原, 1♂, 3♀♀, 18. X. 2002; 6♂♂, 1♀, 20. X. 2002.

南西諸島に広く分布するサビキコリで、燈火に多くの個体が集まる。原名亜種はトカラ諸島を北限として沖縄諸島まで広く普通に見られ、八丈島からの記録例もある。先島諸島に分布する個体群は上記のように別亜種とされ、原名亜種とはよく似ていて紛らわしいが、前胸がやや広く、前胸腹側板に浅い前脚の収まるような斜溝状の凹みが認められ、また雄交尾器末端部の形状に差異点があるということで区別された (OHIRA, 1967: 99)。しかし、奄美大島や喜界島からの多くの資料中には上記の特徴が認められる個体もある。なお、西表島は本亜種の基産地である。

*Agrypnus (Colaulon) miyamotoi haterumanus* (OHIRA, 1967) ハテルマヒメサビキコリ (写真2)

1 ex., 沖縄県西表島大原, 20. X. 2002.

独立種 *Colaulon (Cryptolacon) haterumana* (!) として波照間島からの1♀資料で記載され。現在では上記のようになっている (大平, 1986: 6-8, 12)。これまでに石垣島・与那国島・尖閣諸島の魚釣島から記録されているが、西表島からは初めての報告例となる。なお、近接する宮古諸島には別亜種のミヤコヒメサビキコリ *A. (C.) miyamotoi miyakoensis* が分布する。本種はトカラ諸島 (原名亜種)・三宅島・高知県沖ノ島・口永良部島・屋久島・喜界島・徳之島・沖縄諸島 (本島を除く)・久米島等でそれぞれ別亜種に分化している島嶼型の海浜性ヒメサビキコリ類で、奄美大島と沖縄本島 (共通の別種が分布) からの記録がない興味深い分布をする (KISHII, 1996: 2-10)。

*Prodrasterius collaris asaokai* OHIRA, 1994 イリオモテチビコメツキ (写真3)

1 ex., 沖縄県西表島大原, 18. X. 2002; 2 exs., ditto, 20. X. 2002.

原名亜種は CANDÉZE (1859: 422, 427) によりインド東部 (Indes orientale: Morad-Abad) からの資料で *Drasterius* 属で記載され、その後、多くの研究者により東南アジアの多くの地域と島嶼での分布が明らかになった。この仲間の幼虫期には植物根系を食するものが多く知られ、農作物害虫として著名なものもある。特に甘蔗などの人為的移動に伴う付随分布をしたと見られる例も多い。本種もその可能性が強く、台湾や南西諸島に分散した個体群がそれぞれ特化し別亜種 (台湾: subsp. *taiwanus*; 南西諸島: subsp. *asaokai*) に分化したものと史料される。邦産の本亜種は



西表島から発見記載されたが、筆者は石垣島からの資料も確認している (石垣島石垣市内, 6 exs., 17. III. 1985, 根本圭介 leg.).

#### 参考文献

- KISHII, T. 1996. Notes on Elateridae from Japan and its adjacent Area (14). Bull. Heian High Sch., Kyoto, **39**: 1-40.  
 OHIRA, H. 1967. The Elateridae of the Ryukyu Archipelago, I (COLEOPTERA). Trans. Shikoku Entom. Soc., Matsuyama, **9** (3): 95-106.  
 大平仁夫. 1986. 日本産ヒメサビキコリ類について(コメツキムシ科). 越佐昆虫同好会々報, (63): 3-13.

#### <書 評 Book Review : 新刊・創刊の紹介>

##### ・OSAWA, S., Z.-H. SU & Y. IMURA (2003) : Molecular Phylogeny and Evolution of Carabid Ground Beetles, 国際判 (27.5 × 21 cm), xiv+191 頁, Springer-Verlag, Tokyo.

「ねじればね, 102 号」(2002) で紹介した, 大澤・蘇・井村 (2002): 「DNAでたどるオサムシの系統と進化」, 哲学書房 の英語版である。前版と同様, 全頁カラーで紙質・印刷も申し分ない。出版社は良く知られた国際的な名門で, 世界の学界で広く読まれることを期待したものといえよう。判型を B5 から国際判と大きくしたことで, 周囲の余白を狭くしたので, 頁数が少なくなったが, その反面, 学術的雰囲気が高まったような気がする。第5章の「オサムシ亜科の系統各論」を「Molecular Phylogeny of Carabinae」と見出しが変わったのは実質的であったし, 前版で第6章「分子系統から見たオサムシ亜科の分類再構成」としていた部分を, 最終章の部分に移し, この本の締め括りとして, ここに, 分子系統樹の上位分類の一覧表を掲げ, 属群名のタイプ種を明示しているのは, 当をえたものであった。

日本における3名の研究者によるすばらしい成果が, 広く世界に誇る国際レベルとなったことを祝福し賞賛したい。  
(佐々治寛之)

##### ・中田隆昭 (2004), 「屋久島, もっと知りたい自然編」(南方新社), 256 pp.[本体価格: 1800円]

本書は題名の示すように屋久島の地質, 植物, 動物など自然全般の紹介を意図したものであるが, 著者自身が過去に「大阪府の食葉性コガネムシ」を自費出版したことから明らかなように, 熱心な甲虫愛好家であるため, 通り一遍の案内書とは異なり, 鋭い観察と深い洞察から生まれた好著である。屋久島に何故 *Pidonia* やオトシブミが分布しないか, などの議論は甲虫愛好家にはじめて組上に乗せうるテーマに他ならない。編集子(水野)は著者からこのテーマについての意見を求められていたので, 予め著者の考えは理解していたが今ここにコンセプトとして明示されたことに拍手を送りたい。世界遺産登録という事実は昆虫愛好者にとって嬉しいといえるのか, 迷惑というべきなのか, 人さまざまな見方があると思われるが, 今一度この島を訪れたいとの気持ちにさせてくれた本であることは偽りの無い事実である。  
(水野弘造)

##### ・斜里町立知床博物館 (2003), しれとこライブラリー5 「知床の昆虫」(北海道新聞社, 238 pp. カラー写真多数) [本体価格: 1800円]

題名の示すように昆虫全般を対象とした書ではあるが, 表紙からしてエトロフハナカミキリの登場で, 堀 繁久, 大原昌宏, 加藤敏行, 塚本珪一と名の知れた甲虫屋さんがそれぞれの語り口で思い入れの分類群の解説に熱が込められている。北海道ならではの, また知床ならではのカミキリ, オサムシ, ゴミムシ, エンマムシ, クソムシが語られ写真で紹介されている。これは北海道を知らない編集子(水野)の下手な解説など無用の世界であるから, かくも素晴らしい出版物が世に出され

たことだけ報告しておきたい。  
弘造)

(水野)

・ “InsecTOHOKU” (福島昆虫ファウナ調査グループ)

東北地方の昆虫ファウナの解明を目的に設立されたグループのようで、首記の会誌が ISSN 1347-5584 の番号で既に A5 判で No.5 まで刊行されたようである。頁数は少ないがカラー印刷でその意気込みが推し量られる。尻すぼみにならぬよう順調な発展を祈りたい。

連絡先：〒960-0231 福島市飯坂町平野北ノ内屋敷17, 斎藤修司

(水野弘造)

## 吉野川河口リストの訂正と追加

### Corrigenda and addenda to the list of “The Ground Beetles around the River mouth of Yoshino-gawa, Tokushima Prefecture, Japan”

河上康子 Yasuko KAWAKAMI

〒569-0826 高槻市寿町1-30-9

本誌103号上で報告した“徳島県吉野川河口地域における甲虫調査”について、掲載後いくつかのご教示を頂いたので、ここに訂正と追加を記録する。

1. (誤) *Tachys umbrosa* MOTSCHULSKY 吉野川河口付近右岸  
(1ex., 6. VII. 1999, YK, det. N. ITO; 3exs., 26. IX. 1999, YK, det. N. ITO)  
→ (正) *Tachys exaratus* BATES 吉野川河口付近右岸  
(1ex., 6. VII. 1999, YK, det. N. ITO; 13exs., 26. IX. 1999, YK, det. N. ITO)
2. (誤) *Medon pubeculus* SHARP → (正) *Medon rubeculus* SHARP
3. *Armatocillenus yokohamae* (BATES) キバナガミズギワゴミムシは徳島県からの初記録ではなく、河野(1963, 1968, 1970)に報告がある。また当地からは *Cicindela inspecularis* W. HORN ヨドシロヘリハンミョウ(春沢, 1989)も記録されている。
4. 吉田正隆氏および岸本年郎氏に頂いたご教示によると、記録リストのうち以下の14種は、いずれも文献記録として四国および徳島県初記録となるので、参考までに付記する。(四: 四国初記録; 徳: 徳島県初記録)

キンナガゴミムシ *Pterostichus planicollis* (MOTSCHULSKY) (徳); コケシガムシ *Cercyon aptus* SHARP (徳); フチトリケシガムシ *Cercyon dux* SHARP (徳); ツヤハマベエンマムシ *Eopachylopus ripae* (LEWIS) (徳); クロチビエンマムシ *Carcinopus pumilio* (ERICHSON) (徳); クロズマグソセスジハネカクシ *Oxytelus bengalensis* ERICHSON (徳); *Medon rubeculus* SHARP (四); *Lathrobium ishiharai* HAYASHI (四); ドウバネコガシラハネカクシ *Philonthus cunctator* SHARP (四); カタベニデオキスイ *Urophorus humeralis* (FABRICIUS) (徳); ナガマルキスイ *Atomaria punctatissima* REITTER (四); ニセハマヒョウタンゴミムシ *Idisia vestita* MARSEUL (徳); クロズハマベゴミムシ *Epiphaleria atriceps* LEWIS (徳); ワモンヒョウタンゴムシ *Sympiezomias lewisi* (ROELOFS) (徳)。

末筆になるが、著者に多くの貴重なご教示を頂き文献入手にご援助頂いた、亀澤洋氏、岸本年郎氏、春沢圭太郎氏、林靖彦氏、森田誠司氏、吉田正隆氏と、標本同定の労を頂いた伊藤昇氏に心より感謝申しあげる。



## &lt;参 考 文 献&gt;

- 河野仁一郎, 1963. 灯火に多数飛来したキバネキバナガミズギワゴミムシについて. とくしま虫の国, 6 (1): 34-35.  
 河野仁一郎, 1968. 四国未記録のゴミムシについて (1). 昆虫學評論, 21 (1): 38.  
 河野仁一郎, 1970. 徳島市に分布する歩行虫. 総合学術調査報告徳島, 阿波学会: 29-40  
 春沢圭太郎 1989. ヨドシロヘリハンミョウを吉野川で採集. Nature Study, 35 (12): 8.  
 HAYASHI, Y. 1994. A new macropterous *Lathrobium* species from Japan (Coleoptera: Staphylinidae). Trans. Shikoku Ent. Soc. 20 (3-4): 145-149.  
 吉田正隆, 1970. 徳島市のハネカクシ科及びアリヅカムシ科. 総合学術調査報告徳島, 阿波学会: 40-48.

### カクホソカタムシ検索表の訂正 編 集 部

佐々治寛之 2004. 日本のカクホソカタムシ科序説-属への検索, 本誌, 110: 1-4.  
 の論文に編集部へのミスによる説明文の脱落があったので, 訂正する.

**p. 3:** 日本産カクホソカタムシ亜科 *Ceryloninae* の属の検索表

5. 前胸腹板突起は先方に拡がり, 前胸基節窩は外方に閉じる. 前脚脛節は多少とも先方に拡がり, 外先角は明らかに歯状に角張る. .... 6  
 — 前胸腹板突起は平行か, 弱く拡がり, 前胸基節窩は外方に開く. 前脚脛節の外先角は丸まる ..... 7  
 6. 体表はほとんど平滑で, 扁平. 爪間板がある. 体は通常細長い. .... *Cerylon* 属  
 カクホソカタムシ *C. sharpi* NAKANE, 1963 は 1.5-2.0 mm, 本州・四国・九州に分布する.

上記のように, 5. と 6. の間の 7 に繋がる説明の行が脱落したので, 挿入していただきたい. 執筆者ならびに本検索表を利用される会員にご迷惑をお掛けしたことをお詫び申し上げます.

### 虫屋の広場 (41)

#### 地域別総合甲虫目録

◎ 区市町村単位目録・小地域目録

#### 01. 千葉県市川市

山崎秀雄・宮内博至 (2003), 市川市のコウチュウ目, 「市川市自然環境実態調査報告書 2002」(市川市自然環境調査会, 分冊 I+II: 823 pp.), 485-615. [68 科, 1034 種]

#### 02. 広島県大竹市

中村慎吾・脇寺満文 (2002), 広島県弥栄ダム周辺の昆虫類 2000 年の調査結果, 比婆科学, (205):

15-152. コウチュウ目: 43-69, 112-127. [50 科, 429 種]. (総合計) [50 科, 534 種] (山口県美和町を一部含む)

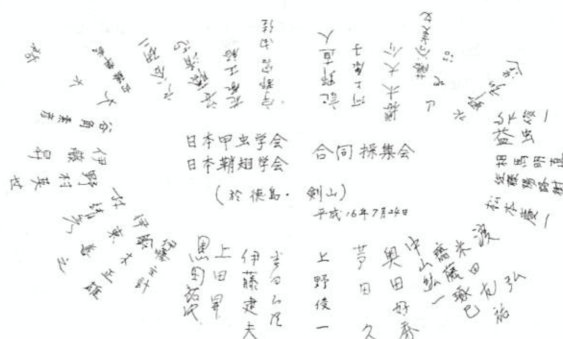
中村慎吾・梅森龍史 (2003), 広島県小瀬川水辺の昆虫類 2001 年の調査結果, 比婆科学, (207): 1-73.

コウチュウ目: 25-47. [44 科, 343 種] (総合計)[482 種]

## 2004年度 日本甲虫学会・日本鞘翅学会合同採集会の報告

2004年度の採集会は吉田正隆氏のご尽力により、国有林への入林許可証をもらって7月24、25日に徳島県剣山で行われた。剣山の採集会は4年ぶりだが、今回は昨年と同様、鞘翅学会と合同で行い、地元四国四県はもとより遠く関東、北陸方面に関西勢が加わり、38名という多数の参加で盛大に行われた。今年は特に台風等天候の心配もあったが、両日とも午前中ははずまずの天気であったが、2日目の午後は降雨や落雷に見舞われた。それでも、各自の研究対象の甲虫の収穫があったのではないと思う。24日夕食時、食事をしながら懇親会へ移行し、参加者全員が一人ずつスピーチを行い、ユーモア溢れる楽しい会話で一時を過ごした。その後は例年通り一部有志による虫談義で深夜まで盛り上がったようだ。

今年は例年になく台風、地震と天災の多い年だが、四国地方も豪雨で大きな被害を受けた。幸い採集会はその直前だったので無事に行えた。最後に、本採集会実施に当たり大変行き届いた計画と真心のこもったお世を話いただいた吉田正隆氏に厚くお礼申し上げる。(野村英世)



## 2004年4月例会の報告

2004年4月例会が大阪市立自然史博物館・集会室で開催され、30名の参加があった。

講演は沢田佳久氏による「兵庫県立人と自然の博物館に寄贈された岸井尚高氏標本および高橋敏氏標本について」で、3万点以上に及ぶ両氏のコレクションの中から、貴重なものや興味深いものについての紹介があった。中には高山性や土壌性の珍しいゾウムシ類も含まれているということであったが、やはり膨大な種数を擁するゾウムシ上科は、奥が深いと感じ入った次第であった。

後半は、今回は一人一話ではなく、懇談会形式となった。博物館の本来あるべき姿などが話題に上がり、報告者には少し耳の痛い(?)部分もあった(財政状況も人員配置もきびしく、思い通りにはいかないのです!)が、やはり少しでも改善の努力をせねば・・・と感じた。

いつもどおり、終了後は沢田さんらを囲んで、天王寺の「桃谷楼」で懇親会が開かれ、にぎやかにおひらきとなった。(初宿成彦)



## ねじればね 111号 Nejirebane No. 111

2004年11月25日 25. Nov. 2004

発行者：日本甲虫学会 (会長 佐々治寛之) The Japan Coleopterological Society

発行所：日本甲虫学会 〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館・昆虫研究室気付

Entomological Laboratory, Osaka Museum of Natural History, Osaka, 546-0034, Japan

振替口座: 00990-8-39672 URL: <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/jcs.html>Tel. 06-6697-6221 Fax. 06-6697-6225 E-mail: [shiyake@mus-nh.city.osaka.jp](mailto:shiyake@mus-nh.city.osaka.jp)

編集：水野弘造，林靖彦，谷角素彦，初宿成彦，保科英人，伊藤建夫

原稿送付先：水野弘造 〒611-0002 宇治市木幡熊小路 19-35 Tel &amp; Fax. 0774-32-4929

E-mail: [kzmizuno@oak.ocn.ne.jp](mailto:kzmizuno@oak.ocn.ne.jp) (和文，E-mailでの投稿を歓迎します)

入会及び会費問合せ先：野村英世 〒590-0144 堺市赤坂台 1-18-5 Tel. 0722-98-4066 (年会費 5,000円)

昆虫学評論原稿送付先(英文)：安藤清志 〒534-0023 大阪市都島区都島南通 1-17-1 大榮商会